

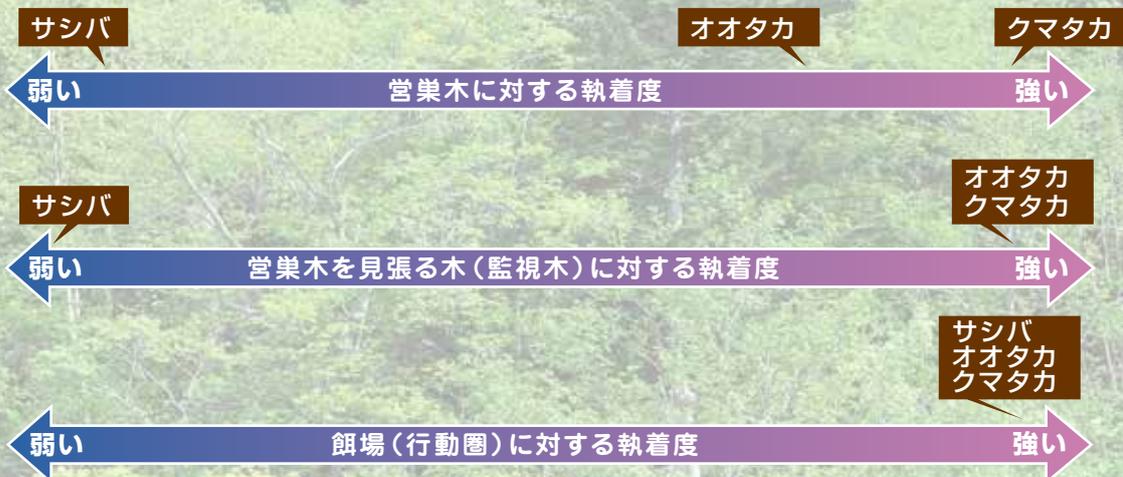
猛禽類の保全と工事の両立

～種類に応じた保全対策・工事計画～

大規模な事業を進める際は、猛禽類の保全と工事を両立させることが重要です。

猛禽類は種類によって営巣環境に対する特性が異なります。種類に応じた保全対策をとることで、より配慮された工事計画を策定することができます。

ここでは、九州で繁殖するクマタカ、オオタカ、サシバを例に猛禽類の保全対策の事例を紹介します。



■ 調査すべき情報

繁殖期に行動圏内を工事する際に必要な情報

- ・ 営巣木の位置・樹種・高さ
- ・ 監視木の位置・樹種・高さ

繁殖期に工事できる範囲を特定するために必要な情報

- ・ 繁殖に必要な行動範囲
- ・ 他つがい、他種の侵入を防衛する範囲

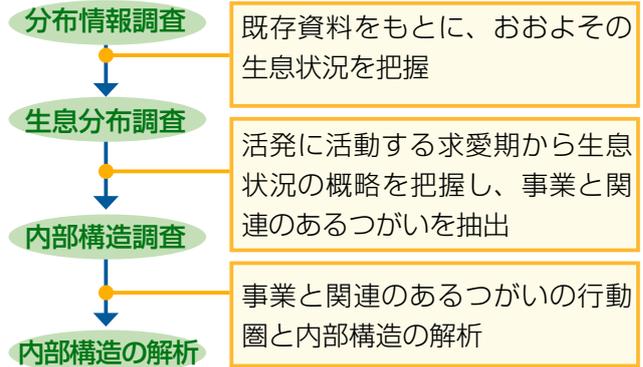
餌場を造成するために必要な情報

- ・ 餌の種類
- ・ 餌場の位置、環境

工事の時期を特定するために必要な情報

- ・ 調査対象つがいの産卵時期、抱卵期間、幼鳥の巣立ち時期などのライフサイクル

■ 基本的な調査手順



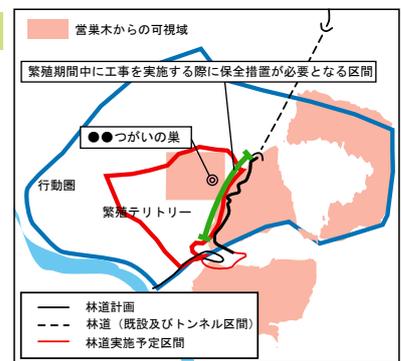
■ 対策のポイント

クマタカ

繁殖期である1月から7月は、工事を実施しない方が望ましい。

繁殖期に行動圏内で工事を実施しなくてはならない場合、営巣木を容易に変えることができない生態特性を踏まえ、以下のポイントを考慮した工事計画を策定する。

1. 行動圏内で工事する場合は、繁殖前から工事を開始する。
2. 繁殖期に工事する場合、営巣木および監視木から見えない範囲を工事する。
3. 餌場は改変しない。改変する場合は餌場を新たに創造する。



営巣木周辺での工事計画の事例

オオタカ

繁殖期である1月から7月は、工事を実施しない方が望ましい。

繁殖期に行動圏内で工事を実施しなくてはならない場合、監視木から見える範囲であれば、営巣木を変えられる生態特性を踏まえ、以下のポイントを考慮した工事計画を策定する。

1. 行動圏内で工事する場合は、繁殖前から工事を開始する。
2. 繁殖期に工事する場合、営巣木および監視木から見えない範囲を工事する。
新たな監視木の設置。

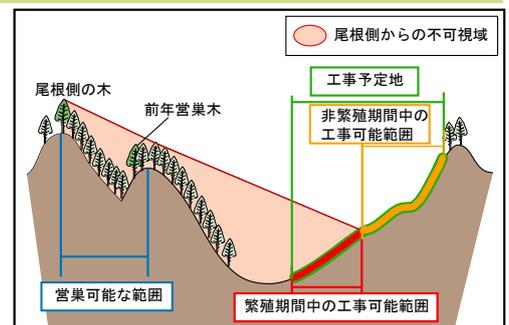


新たな監視木の設置

サンバ

繁殖期である4月から7月は、工事を実施しない方が望ましい。繁殖期に行動圏内で工事を実施しなくてはならない場合、行動圏内であれば、営巣木を変えられる生態特性を踏まえ、以下のポイントを考慮した工事計画を策定する。

1. 行動圏内で工事する場合は、飛来前から工事を開始する。
2. 繁殖期に工事する場合、営巣木から見えない範囲を工事する。
3. 餌場は改変しない。改変する場合は餌場を新たに創造する。
4. 行動圏内を工事する場合は、一方向から工事する。



営巣木周辺での工事計画の事例